

特任准教授 **平田 貴文**  
Takafumi Hirata

プロジェクト名/ECOTIP

期間 2020年6月から4年間

北極海域の海洋生物多様性と生態系の現状を明らかにするとともに、気候が変動する中での海洋の管理方法や適応戦略を自然科学の立場から提言するための国際共同プロジェクト。日本からは北海道大学と東京大学が参加し、北海道大学北極域研究センターでは人工衛星から得られるデータを活用することで、気候変動下での海洋生態系の抵抗力や回復力、持続性などを研究しています。



ポーランドの研究者と  
交流&論文を共著

ポーランドの研究者に誘われて  
ECOTIPに参加

オンラインで  
今後の共同研究に向けて会議

## 参加することで、 研究の新たな可能性が拓ける

共著で論文を書いたこともあるポーランド人の研究者に誘われ、私はこのプロジェクトに参加しました。私の研究者としての軸足は、北極域研究センターで推進している国内プロジェクトにあります。国際的な共同プロジェクトに参加することで可能になる研究があり、貴重な情報や知識も得られると考えています。プロジェクトは2020年に始まったばかりで、新型コロナウイルスの影響で渡欧などできない状況ですが、オンラインでのミーティングによってお互いの研究内容に対する理解を深め、それぞれの専門性をどのように融合させて研究を進めていくのかを議論しています。

## 単独でできる研究ではないから、 国際的な共同研究はとても重要な機会

私たちが属する地球科学の分野では、ひとりで進められる研究はほとんどありません。研究をするには、複数の研究者や研究機関が連携する必要があります。そのため、さまざまな国や機関の研究者が連携する今回の国際共同研究も、大きな意義があると

感じています。例えば、北極海域の研究においても、日本の研究はどうしても近くのベーリング海やチャクチ海が中心となります。しかし、今回のプロジェクトでは大西洋側の北極海域のデータを得ることができるため、私たちの北極海域に関する研究も局地的な研究から俯瞰的な研究へ発展させていくことができると期待しています。



## 科学に国境はないからこそ、 国際的なネットワークづくりが大切

他国の研究者と協力関係を築くためには、このような国際的なプロジェクトに参加してネットワークをつくっていくことが非常に有効な方法だと思います。私はかねてよりずっとお話をしてみたいと考えていたヨーロッパの研究者とも、このプロジェクトを通して知り合うことができました。今はオンラインで会議などでもできる時代ですが、研究者同士が同じ場所に集って会議や研究をすることで信頼関係が生まれ、そうした信頼関係が研究成果にもつながっていくと考えます。みなさんもぜひ参加し、国際共同研究の機会をぜひ活用してください。

